

新金沢型学校教育モデル

金沢市教育委員会

目 次

	頁
1 新金沢型学校教育モデルの構築に当たって	1
2 新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方	4
3 新金沢型学校教育モデルの具体的な方向性	6
4 新金沢型学校教育モデル実践に当たっての留意点	14

(別紙) 参考資料

1 新金沢型学校教育モデルの構築に当たって

(1) 構築の背景と経緯

本市では、平成 16 年度から「世界都市金沢」小中一貫英語教育、学習指導基準金沢スタンダード、学校 2 学期制の 3 つの柱からなる「学校教育金沢モデル」を推進しており、平成 21 年度からは、新たに金沢「絆」教育を加えた「第 2 次学校教育金沢モデル」の実践に取り組んできた。

「第 2 次学校教育金沢モデル」の柱の 1 つであった学校 2 学期制については、同じく 2 学期制を実施してきた政令市や中核市の動向も踏まえ、金沢市立小中学校学期制検討委員会を設置し、その提言（平成 25 年 5 月）を受けて、平成 26 年度より「学びのステップを大切にした新たな 3 学期制」へ移行している。

また、平成 14 年に「金沢子ども条例（子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例）」が施行され、これに基づき、大人が具体的にどのような行動をしていくべきなのかをまとめた金沢子どもを育む行動計画をはじめ、金沢市健康教育推進プラン、金沢市特別支援教育指針、金沢子ども読書推進プラン等を策定してきた。さらに、平成 27 年 1 月、本市学校教育の一層の振興を図るため、中長期の視点に立つためすべき学校教育の姿や取り組むべき施策等を明らかにした「金沢市学校教育振興基本計画」を策定し、この計画に基づき、総合的な施策を実践していくこととなった。

これに伴い、「金沢市学校教育振興基本計画」の基本理念やめざすべき金沢の子ども像の実現に向けて、取り組むべき施策の考え方を重点化・焦点化し、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成や金沢への愛着と誇りが持てる教育を推進していくことが大切であると考え、平成 28 年度より、「何を学ぶか」という内容として「金沢型学習プログラム」、「どのように学ぶか」という方法として「金沢型学習スタイル」、それらを支える学びの土台として「金沢型小中一貫教育」の 3 つの要素で構成された「金沢型学校教育モデル」の実践に取り組んできた。

その間、「金沢市学校教育振興基本計画」の改定をはじめ、学習指導要領の改訂や GIGA スクール構想といった学校教育におけるデジタル化の急速な進展など、現行のモデル構築時とは環境が大きく変化してきた。

そのため、予測困難な変化や急速に進行する多様化に対応し、未来を創るために必要な力を身に付けることができる金沢の子どもたちを育成するため、新しい時代が求める学びの在り方を踏まえた次期金沢型学校教育モデルを構築し、本市において高い教育水準の確立をめざすこととした。

まずは、「金沢型学校教育モデル」の 3 つの要素（金沢型学習プログラム、金沢型学習スタイル、金沢型小中一貫教育）について検証することから始めた。検証に当たっては、市立小中学校長を対象とした意識調査を行い、その調査結果等を踏まえて、成果と課題を明らかにしていった。

(2) 金沢型学校教育モデルの成果と課題

意識調査結果等を踏まえて、明らかになった金沢型学校教育モデルの成果と課題は、以下のとおりである。

① 金沢型学習プログラムの成果と課題

ア 金沢ベーシックカリキュラムについて

- 【成果】○金沢ベーシックカリキュラムを基準に、児童生徒の実態や地域の特色等を踏まえ、各学校の特色ある学習内容を加えることで、知・徳・体の調和のとれた学習を展開することができた。
- どの時期にどの単元を実施すればよいかの指標になり、学習のねらい等を把握して学習計画を立案し、実践することで、確実な履修を図ることができた。
- 【課題】・学力調査結果等の学校の実態を踏まえ、創意工夫を凝らした授業を実践するための、カリキュラムマネジメントを適切に行う必要があった。

イ 金沢ふるさと学習について

- 【成果】○学年テーマを基に、地域とのつながりから、ふるさと金沢の魅力を知り、興味をもったり驚きを感じたりしながら深く学習することができた。
- 地域の特色や人材等、地域資源を生かすことで、金沢のまちに愛着と誇りをもったまちづくりの担い手を育むことができた。
- 【課題】・小学校と中学校の内容に重複があったり、地域の特色や人材が不足したりするため、自分なりの提案を考え伝えるなど取組の充実を図ることやねらいの達成が難しい場面があった。

ウ 金沢「絆」活動について

- 【成果】○小・中学校の共通した取組や小中連携によって、主体的に取り組む姿が見られ、様々な学校との交流が生まれることでよい刺激となり、活動の充実や意識の向上が見られた。
- 「金沢子どもかがやき宣言」に基づいたテーマを共通実践することで意識の向上につながった。
- 【課題】・感染症対策や天候不良、教員の多忙化により活動が制限され、活動が単発や形式的になり、本来の目的や意図に応じた活動を行うことができない状況が見られた。

エ その他

- 【成果】○「金沢ベーシックカリキュラム」は、実態を踏まえた指導の重点がカリキュラムに反映され、指導事項が明確で、全国に誇れる教育課程であり、教員にとっての指導の指針になった。
- 【課題】・金沢「絆」活動を、SDGsの視点など新しい時代に求められる資質・能力で整理し、金沢への愛着や誇りが深まるようにする必要があった。

② 金沢型学習スタイルの成果と課題

ア 金沢型学習スタイルについて

- 【成果】○小・中学校における基本となる学習方法や指導方法が示されているので、若手教員も金沢型学習スタイルをベースに授業を組み立てることができ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた問題解決的な学習を推進することができた。
- 金沢型学習スタイルを基盤として学校研究を推進したことで、問題解決的な学習の流れが教師にも児童生徒にも定着し、児童生徒の対話が増え、深い学びにつながった。
- 【課題】・型にとらわれると、教師主導となり、児童生徒の主体性を引き出すことや終末段階での児童生徒の見取りや学びの深まりが十分ではなかった。

イ その他

- 【成果】○金沢型学習スタイルがあることで指導しやすく、主体的・対話的な学習への意識は定着してきたことから、引き続き全市で確実に取り組めるとよい。
- 【課題】・金沢型学習スタイルにおける考えを深める取組や、ICT版金沢型学習スタイルを意識し、効果的な場面において1人1台学習用端末を取り入れることが必要であった。

③ 金沢型小中一貫教育の成果と課題

ア 金沢型小中一貫教育について

- 【成果】○小・中学校での教員相互の授業参観等でどんな力をつけたいのかが明確となり小・中学校で学習規律や家庭学習等9年間を見通した連続性のある教育活動を展開することができた。
- 校区の実情や児童生徒の実態に応じた小中連携を推進したことで、小学校6年生と中学校1年生の接続がスムーズになり、児童生徒の不安感を減らすことができた。
- 【課題】・小・中学校での教員相互の授業参観等の日程調整が難しく、特にコロナ禍においては、9年間を見通した教育活動を行う意識が希薄になり、より効果的な交流の在り方を考える必要があった。

イ その他

- 【成果】○小・中学校ともに、9年間を見通して「学び」と「育ち」をつなげることが大切であり、小・中学校の教員が、一緒に教育について協議する機会を充実させることができた。
- 【課題】・地域の特色を把握し、具体的な目標や内容を明確にして実施することも大切であった。

2 新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方

IoT やビッグデータ、AI 等の技術革新の進展により、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、国全体のデジタル化の取組が進む中、教育分野においても GIGA スクール構想をはじめ、デジタル技術の効果的活用を図ることが期待されている。一方で、AI がいかに進化しようとも、人間は、自ら課題を設定し、その課題に応じて必要な情報を基に、深く理解して自分の考えをまとめたり、表現を工夫したり、多様な他者と協働しながら目的に応じて粘り強く新しい価値や最適解を見出したりすることができる強みがある。

金沢市学校教育振興基本計画では、「明日を拓き 社会を担う 金沢発のひとづくり ～『心』と『力』を育む学校教育～」を基本理念に掲げ、この中で、「児童生徒には、時代の変化に対応するための多様な能力を備えることが強く求められていること」「多くの仲間や教員との交流を通して、明日を切り拓くために大切な『心』と『力』を身に付けることが必要であること」が明記されている。

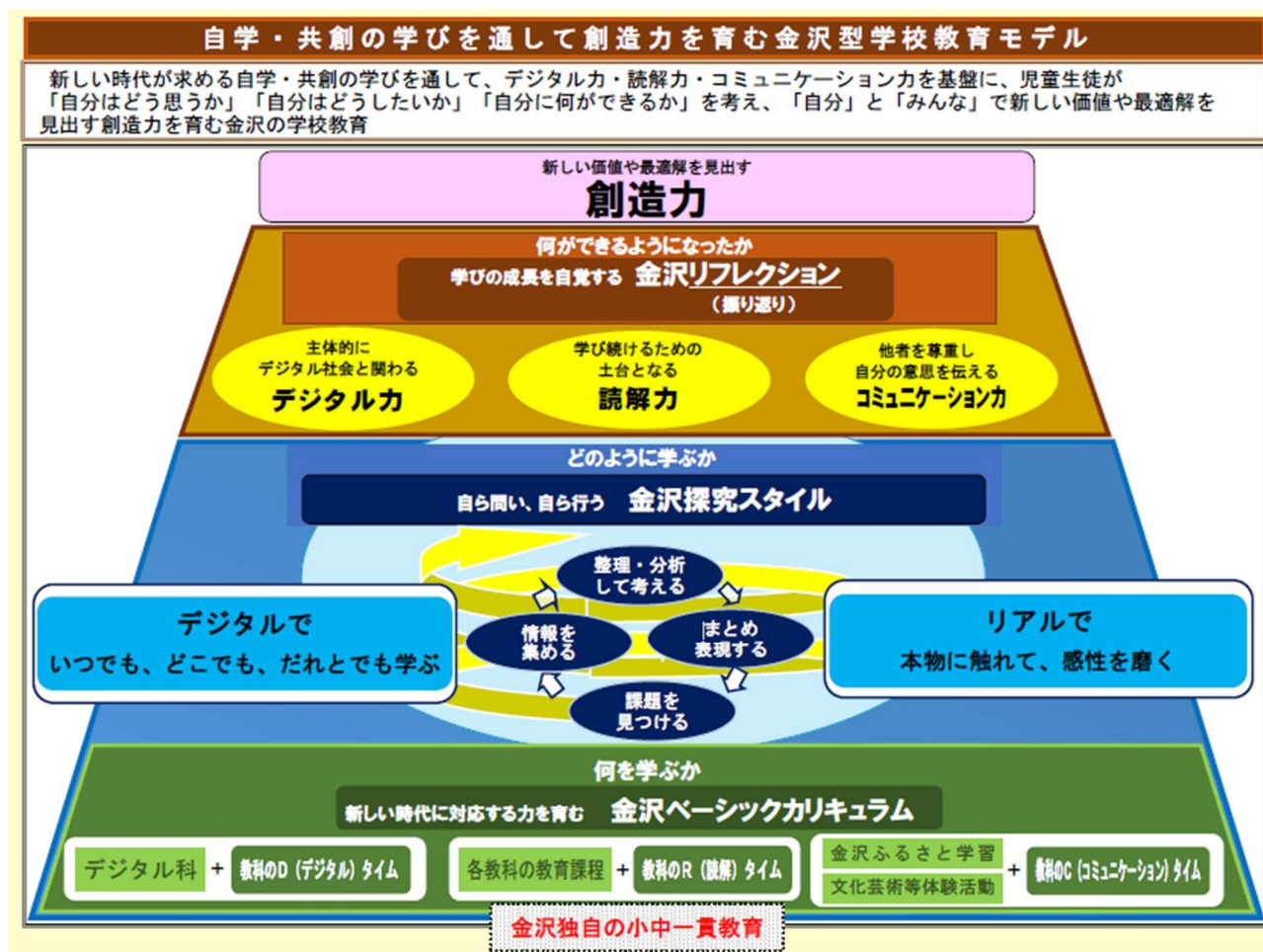
この基本理念と金沢型学校教育モデル（ICT 版を含む）の検証結果を踏まえ、新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、主体的にデジタル社会と関わる「デジタル力」、学び続けるための土台となる「読解力」、他者を尊重し自分の意思を伝える「コミュニケーション力」の3つの力を基盤に、児童生徒が「自分はどうか」「自分はどうか」「自分に何ができるか」を考え、「自分」と「みんな」で新しい価値や最適解を見出す「創造力」を育む新たな学校教育モデルとして「新金沢型学校教育モデル」を構築し、金沢市学校教育振興基本計画において掲げている豊かな「心」と多様な「力」を備えた「めざすべき金沢の子ども像」の実現を図っていく。

「新金沢型学校教育モデル」は、児童生徒が「何を学ぶか」として新しい時代に対応する力を育む「金沢ベーシックカリキュラム」、「どのように学ぶか」として、自ら問い、自ら行う「金沢探究スタイル」、「何ができるようになったか」として児童生徒が学びの成長を自覚する「金沢リフレクション（振り返り）」の3つの要素で構成される。

金沢は、未来を拓く世界の共創文化都市を目指し、伝統を守りながら、多様な人達が立場や世代を超えてつながり合い、新たな価値を創造し、持続可能な発展を続ける社会の実現に向けて取り組んでいるまちである。「新金沢型学校教育モデル」においても、時間・空間・世代を超えてつながることができるデジタルの利点と、歴史・伝統文化・自然等に触れ、感性を豊かに働かせることができる金沢の利点とを融合しながら、探究的な学びを通して、新しい時代が求める「創造力」を育んでいく。

また、中学校区における小中連携を引き続き推進する「金沢独自の小中一貫教育」により、9年間を見通した連続性のある教育活動を展開し、児童生徒の学びと育ちをつなげていく。

体系図



新しい価値や最適解を見出す過程で見られる子どもの姿

- 課題を見つける
- 解決に向けて深く考える
- 他者と協力して活動する
- 感性豊かに表現する
- 粘り強く挑戦する

3 新金沢型学校教育モデルの具体的な方向性

新金沢型学校教育モデル構築の基本的な考え方にに基づき、具体的な方向性を以下のように示す。

(1) 金沢ベーシックカリキュラム

「金沢ベーシックカリキュラム」は、「創造力」を育むために、基盤となるデジタル力・読解力・コミュニケーション力の育成を重点とした学習内容を示すことで、金沢独自の小・中学校の教育課程の基準を明確にすることを目的とする。

具体的には、デジタル力の育成のために「デジタル科の新設」と「各教科の教育課程にD（デジタル）タイムを位置付け」、読解力の育成のために「各教科の教育課程の編成」と「各教科の教育課程にR（読解）タイムを位置付け」、コミュニケーション力の育成のために「金沢ふるさと学習の改訂」、「体験活動の充実」と「各教科等の教育課程にC（コミュニケーション）タイムを位置付け」を実施する。

① デジタル力の育成

ICTの日常的な活用を前提に、ICTの負の側面を認識しつつ、「正しく活用するために、何が求められているのか」、「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画するための力を育成する「デジタル・シティズンシップ教育」の充実を図る。

そのために、9年間を見通した連続性のあるカリキュラムを編成することに加え、重点的に情報活用能力を育成する時間を設定し、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現する探究的な活動を通して、主体的にデジタル社会と関わるデジタル力の育成を図る。

ア デジタル科の新設

プログラミング教育ベーシックカリキュラム（第二版）を改訂した発展的プログラミング学習やデータ活用探究学習等を実施したり、デジタル・シティズンシップ教育の充実を図ったりするデジタル科を新設する。

イ 教育課程を「デジタル力」の育成の視点で編成

情報活用能力体系表を改訂し、各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「デジタル力」育成の視点で編成し、「Dタイム」として位置付ける。

ウ ICT活用の充実

各教科等で日常的に1人1台学習用端末を活用し、デジタルを活用した探究的な活動に取り組む。

② 読解力の育成

各教科等において、文章・図表・動画等から情報を収集、整理・分析したり、情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるかを読み取ったり、他者の思いを読み取ったりすることなどを通して、学び続けるための土台となる読解力の育成を図る。

ア 教育課程を「読解力」育成の視点で編成

各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「読解力」育成の視点で編成し、「Rタイム」として位置付ける。

イ 資料・新聞等の活用

文章、図表、動画等の幅広い情報を基に、自分の考えを整理し、文と文のつながりに着目して、まとまりのある文章を書くなどの表現活動の充実を図ることに加え、複数の資料を関連付け、考えを形成したり再構築したりする。

(例) ・新聞、書籍の活用 (電子版を含む)

- ・インターネット等から情報収集、分析し、考察したことを基にディベートの実施
- ・全国学力・学習状況調査の活用 など

ウ 読書活動の充実

授業のねらいに沿って学校図書館を活用し、デジタル資料と図書資料の利点を融合しながら、読書の質の向上に向けた取組を推進する。

③ コミュニケーション力の育成

学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題について、児童生徒が ICT を効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりしながら、自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりするなど、探究的な活動に取り組むことを通して、他者を尊重し自分の意思を伝えるコミュニケーション力の育成を図る。

ア 教育課程を「コミュニケーション力」の育成の視点で編成

各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを対話やプレゼンテーション能力を意識した「コミュニケーション力」育成の視点で編成し、「Cタイム」として位置付ける。

(例) ・算数・数学科で、データの分析結果をプレゼン

- ・英語科・外国語科で、調べた国の情報を英語でプレゼン

イ 金沢ふるさと学習の充実

金沢ふるさと学習を SDGs、G7 教育大臣会合「富山・金沢宣言」の視点で改訂する。

ウ 体験活動の充実

伝統文化・工芸、歴史的建造物等に触れる活動、音楽、美術、劇等の本物に触れる活動、多様な価値観・文化に触れる国際理解教育の充実を図る。

(例) オーケストラ、ミュージアムクルーズ、素囃子、偉人館博物館、
宿泊体験・修学旅行、キャリア教育 など

(2) 金沢探究スタイル

「金沢探究スタイル」は、「金沢型学習スタイル（ICT版を含む）」とデジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、「自分はどうか」「自分はどうか」「自分に何ができるか」を考える探究的な学びを通して、「創造力」を育成することを目的とする。

具体的には、教科の学習をはじめ、学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題などを、自分のこととして受け止め、多様な他者と協働するなど、解決に向けた活動の充実を図ること、ICTを効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習を往還すること、個別最適で協働的な学びの一体的充実を図りながら、主体的・対話的で深い学びを通して、各教科等の資質・能力を育成することを重視する。

① 探究的な活動の充実

本市では、これまで「金沢型学習スタイル（ICT版を含む）」に基づき、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学習、分かる・できる喜びのある学習、好ましい人間関係に基づく学習の3点を重視し、併せて1人1台学習用端末等を活用した授業改善を推進してきた。これを基盤に、探究的な活動や体験活動を通じ、課題を自分のこととして受け止め、多様な他者と協働しながら各教科等の資質・能力の育成を図ることを重視する。

そのために、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現する探究的な活動の充実を図る。

ア 課題設定

児童生徒が目標に基づいて課題を設定したり、学習対象への興味・関心に基づいて課題を設定したり、リフレクションに基づいて課題を設定したりする。

- (例) ・前時との比較、体験活動
- ・理想と現実のずれ など

イ 情報収集

児童生徒が各教科の見方・考え方を働かせて情報収集、情報の蓄積を図る。

- (例) ・実験・観察、追体験 など

ウ 整理・分析

児童生徒が情報を比較分類したり関連付けを図ったりする。

- (例) ・ICTや発達段階に応じた思考ツールの活用 など

エ まとめ・表現

児童生徒が相手意識や目的意識をもったまとめ・表現をし、考えの再構築を図る。

- (例) ・ICTの活用、制作活動 など

② デジタルとリアルの往還

ICT を効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習の充実を図る。

具体的には、様々な場面で、デジタルとリアルを使い分けたり、組み合わせたりしながら、教科の内容と日常生活を関係付けたり、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせたり、自分のこととして捉え考えたりする学習を重視する。

③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けたり、多様な他者と協働的に学んだりしながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

ア デジタルを活用した個別最適な学び

課題設定、情報の検索、データの処理や視覚化、レポート作成等で ICT を効果的に活用し、個々が選んだ方法を用いて課題を解決する。

- (例) ・課題設定 (電子新聞・電子書籍の活用等)
・整理分析 (統計的手法、思考ツールの活用等) など

イ デジタルを活用した協働的な学び

時間的・空間的制約を超えて音声・画像・データ等を送受信し、多様な人たちと、異なる視点で情報共有を図ることで、考えを広げ、深める。

- (例) ・ICT で共同編集
・多様な意見を共有しつつ、合意形成
・デジタルで国内外へ発信 など

ウ リアルな体験を通じた個別最適な学び

地域での体験活動や各分野の専門家との交流を通して、互いの考え方や感性を刺激し合い、個々が選んだ方法を用いて発見した課題を解決する。

- (例) ・情報収集 (体験活動、図書館、アンケート等)
・まとめ・表現 (パネルディスカッション等) など

エ リアルな体験を通じた協働的な学び

様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできる実感をもつことを繰り返すことで、主体的に学びに向かい、学んだことを生かす。

- (例) ・学校、地域・企業等、社会に向けての報告 など

(3) 金沢リフレクション

何を学ぶかを示した「金沢ベーシックカリキュラム」、どのように学ぶかを示した「金沢探究スタイル」、土台となる金沢独自の小中一貫教育により、児童生徒がデジタル力・読解力・コミュニケーション力について、身に付けることができたかを振り返り、学びの成長を自覚することを目的とする。

具体的には、デジタル力・読解力・コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿を明確にし、児童生徒が各教科等の授業の振り返りを通して、学びの成長を自覚できるようにする。また、学校等が学びをアウトプットする場を設定したり、客観的な資料を提供し、児童生徒が活用できるようにしたりする。

① デジタル力の振り返り

デジタル力を身に付けた子どもの姿

「主体的にデジタル社会と関わる姿」

- ICT を日常的に活用する
- 課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現する探究的な活動で ICT を効果的に活用する
- 「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画する など

ア 各教科等

- ・ノートや1人1台学習用端末を活用した振り返りや相互評価
- ・Dタイムで学びを自覚する自己評価 など

イ 全国学力・学習状況調査等

- ・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙にある「PC、タブレットなどの ICT 機器の使用頻度」、「PC、タブレットを活用することの有用性」についての質問項目の活用
- ・学校評価の学校評価計画に重点目標、デジタル力を観点とした評価項目・指標を明記
- ・学期毎に1人1台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施 など

ウ 情報活用能力検定

- ・情報活用能力体系表（文科省）に基づく、情報活用能力調査 など

エ ロボットコンテスト等

- (例)
- ・校内ロボットコンテストの実施
 - ・希望者が大学等主催のプログラミング大会に参加 など

② 読解力の振り返り

読解力を身に付けた子どもの姿

「学び続けるための土台を身に付けた姿」

- 文章、図表、動画等から情報を収集、整理・分析する
- 情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるか読み取る
- 他者の思いを読み取る など

ア 各教科等

- ・ノートや1人1台学習用端末を活用した振り返りや相互評価
- ・Rタイムで学びを自覚する自己評価 など

イ 全国学力・学習状況調査等

- ・全国学力・学習状況調査の国語の「読むこと」「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」のうち、根拠を基に深く考えることに適した問題で検証
- ・児童生徒質問紙にある読書活動に関する「授業時間以外の読書時間」、「図書館の利用頻度」についての質問項目の活用
- ・学校評価の学校評価計画に重点目標、読解力を観点とした評価項目・指標を明記
- ・学期毎に1人1台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施 など

ウ 読解力検定等

- (例) ・文章を正確に理解し、利用し、熟考する調査
- ・NIEの取組、読書感想文、自由研究 など

③ コミュニケーション力の振り返り

コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿

「他者を尊重し、自分の意思を伝える姿」

- ICTを効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりする
- 自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりしながら探究的な活動に取り組む
- 目的や相手に応じて、分かりやすくプレゼンする など

ア 各教科等

- ・ノートや1人1台学習用端末を活用した振り返りや相互評価
- ・Cタイムで学びを自覚する自己評価 など

イ 全国学力・学習状況調査等

- ・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙にある話し合いに関することの「自分の考えを深めたり、広めたりする」「互いの意見の良さを生かして解決方法を決める」と、地域や伝統、外国に関することの「地域や社会をよくするために何かしたい」についての質問項目の活用
- ・学校評価の学校評価計画に重点目標、コミュニケーション力を観点とした評価項目・指標を明記
- ・学期毎に1人1台学習用端末を活用した市内統一の調査等の実施 など

ウ フォーラム、ジュニア金沢検定等

- (例) ・金沢ふるさと学習で設定した課題の解決方法について、金沢 SDGs 子どもフォーラム等で紹介
- ・希望者が英語スピーチコンテストに参加
 - ・希望者がジュニア金沢検定に参加 など

4 新金沢型学校教育モデル実践に当たっての留意点

新金沢型学校教育モデルの実践に当たっては、モデルに基づく教育活動が一層効果を発揮するよう、以下の点に留意する。

(1) 教職員の理解と組織的な対応

新しい価値や最適解を見出す創造力を育む、新金沢型学校教育モデルに基づく教育活動を実践するためには、全ての学校の教職員一人一人が、基本的な考え方、具体的な方向性について十分に理解し、目的意識を明確にして必要感のある取組となるよう配慮することが重要であり、そうした日々の教職員による実践の積み重ねが着実に成果につながっていくと考える。

そのために、校長を中心とした全教職員による共通理解のもと、組織的な取組となるよう工夫することが求められる。そのことは、協力・協働の学校運営につながり、教育現場の抱える問題の一つである教職員の多忙化改善の一助となると考える。

(2) 保護者・地域等への発信

新金沢型学校教育モデルについては、上記のように全ての教職員がその趣旨等について理解し、実践していくことが大切であるが、加えて、保護者や地域に発信し、十分な理解のもと、学校の教育活動への協力を得ることにより、その効果が高まることが期待される。さらに、家庭教育や地域の行事等においても、学校と同じ方向性で教育活動を行うよう連携を求めることができれば、一層の効果が期待できる。

そのために、新金沢型学校教育モデルについては、保護者や地域の方にとって、できるだけ分かりやすい表現で発信するよう工夫することが求められる。そのことは、保護者や地域の方だけでなく、児童生徒の理解にもつながり、児童生徒と教職員・保護者・地域が一体となって教育活動を推進することが可能になる。また、学校からの一方向の発信に止まらず、学校は地域の活動等を理解し、双方向に連携を図ることも大切である。

(3) 取組の検証

新金沢型学校教育モデルの実践に当たっては、具体的な取組によって、創造力を身に付けた子ども像の実現に迫ることができたかについて、検証を行っていくことが大切である。

そのために、例えば、各学校では、学校評価計画に新金沢型学校教育モデルに係る重点目標や、「金沢ベーシックカリキュラム」「金沢探究スタイル」「金沢リフレクション」を観点とした評価項目・指標を明記するなど、取組を確実にを行い、成果を実感できるよう工夫することが求められる。

また、教育委員会は、学校訪問等により取組状況の把握に努めるとともに、各学校の評価結果や各種調査結果を集計・分析して、市全体として新金沢型学校教育モデルの実践状況や成果等を検証し、必要な指導や施策による支援を行う必要がある。

(4) デジタル科の新設（授業時数特例校の申請）

デジタル科の新設に当たっては、文部科学省の授業時数特例校制度を活用する。具体的には、各学年の年間の標準授業時数の総授業時数は維持した上で、下記のとおり、各教科の標準授業時数を下回った教育課程を編成する。

また、各学校では、特別の教育課程の内容について、保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるため、市教委が作成するリーフレット等を用いて説明を行うとともに、当該学校のウェブサイトにおいて、特別の教育課程の編成の方針等を公表する。

① 小学校の授業時数

ア 第1学年及び第2学年

- ・国語科では、標準授業時数を3時間、算数科では、標準授業時数を2時間下回り、下回ったことによって生じた5時間をデジタル科として活用（生活科に上乗せ）。

イ 第3学年及び第4学年

- ・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各2時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた10時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

ウ 第5学年

- ・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各3時間ずつ、音楽科、図画工作科、家庭科では各1時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた18時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

エ 第6学年

- ・国語科、社会科、算数科、理科、体育科では、標準授業時数を各3時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた15時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

② 中学校の授業時数

国語科、社会科、数学科、理科、外国語科、保健体育科では、標準授業時数を各3時間ずつ下回り、下回ったことによって生じた18時間をデジタル科として活用（総合的な学習の時間に上乗せ）。

令和7年度 金沢市立小・中学校の標準授業時数

【小学校】

区分	各 教 科											総合的な学習の時間	(デジタル科)	特別活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	英語	道徳				
第1学年	303		134		107	68	68		102		34		(5)	34	850
第2学年	312		173		110	70	70		105		35		(5)	35	910
第3学年	243	68	173	88		60	60		103	35	35	80	(20)	35	980
第4学年	243	88	173	103		60	60		103	35	35	80	(20)	35	1015
第5学年	172	97	172	102		49	49	59	87	70	35	88	(18)	35	1015
第6学年	172	102	172	102		50	50	55	87	70	35	85	(18)	35	1015

※この表の授業時数の1単位時間は、45分とする。

※第1・2学年の英語活動については、年間10単位時間のショートタイム授業を行う。

※第3～6学年の英語科については、上記授業時数に加えて年間12単位時間のショートタイム授業を行う。

※第1・2学年の生活科については、デジタル科の時数（内数）を含む。

※第3～6学年の総合的な学習の時間については、デジタル科の時数（内数）を含む。

【中学校】

区分	各 教 科										総合的な学習の時間	(デジタル科)	特別活動	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語	道徳				
第1学年	137	102	137	102	45	45	102	70	137	35	68	(18)	35	1015
第2学年	137	102	102	137	35	35	102	70	137	35	88	(18)	35	1015
第3学年	102	137	137	137	35	35	102	35	137	35	88	(18)	35	1015

※この表の授業時数の1単位時間は、50分とする。

※第1～3学年の総合的な学習の時間については、デジタル科の時数（内数）を含む。

③ デジタル科の内容及び授業時数の主な内訳

ア プログラミング学習

- (例) ・ロボット操作を中心とした学習
 ・生活や地域の課題を解決するロボットアイデアコンテスト
 ・プログラミングによるアニメーション作成 など

イ データ活用探究学習

- (例) ・ふるさと学習におけるデータ活用
 ・学校生活に関わる課題や地域課題、地球規模的課題について、データを基に解決する学習
 ・情報 I につながる学習 など

ウ デジタル・シティズンシップ (D・C) 教育の充実

- (例) ・9年間を見通した連続性のある情報モラル・情報セキュリティ教育 など

エ 先端技術体験

- (例) ・大学や企業等との連携による出前授業や見学 など

デジタル科			小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
	総時数		5	5	20	20	18	18	18	18	18
内訳	プログラミング		4	4	13	13	10	10			
	データ活用				4	4	5	5	10	10	15
	D・C教育		1	1	3	3	3	3	3	3	3
	先端技術								5	5	

④ デジタル科の運用

教務主任等が中心となり、年間指導計画一覧表や週の予定にデジタル科を位置付け、実施状況を把握する。小学校においては、担任が複数の教科を担当していることを生かし、柔軟に時間割を運用する。その際、学級間で学習進度や内容に差が生じないように留意する。また、中学校においては、教科担任制であるため、教科に偏りが生じないように留意し、デジタル科を位置付ける。

(例) 【年間指導計画一覧表】

月週数	4月	2	5月	3
総合的な学習の時間	○○○○○○○○	4	○○○○○○○○○○	9
デジタル科	デジタル・シティズンシップ	1	プログラミング(ロボット操作)	4

【小学校】

- ・プログラミング学習については、学年で内容や時期を合わせて計画的に実施
- ・データ活用探究学習については、ふるさと学習の教育課程に基づき、総合的な学習の時間に実施
- ・デジタル・シティズンシップ教育の充実を図る学習については、学校全体で新学期の第1週に実施する等、期間を決めて計画的に実施

【中学校】

- ・データ活用探究学習については、各学校で学習に取り組む期間や時間を設定し、学年で合わせて計画的に実施
- ・デジタル・シティズンシップ教育の充実を図る学習については、学校全体で新学期の第1週に実施する等、期間を決めて計画的に実施
- ・先端技術体験は、企業や大学等と連携しながら、事前事後学習を含め、午前及び午後のまとまった時間で実施

(5) 支援体制

デジタル科の実践に当たって、教育委員会が、授業では、技術面の支援をできるよう各学校に ICT 支援員を派遣したり、先端技術の体験学習等では、大学や企業の協力を得たりして実施できるよう努める必要がある。

(参考) 「新金沢型学校教育モデル」教職員向け概要説明動画資料
<https://youtu.be/UWxYjxLvKoA>

(令和6年7月16日作成)



(別紙)

参 考 資 料

新金沢型学校教育モデルで育成する資質・能力

新しい価値や最適解を見出す

創造力

IoT やビッグデータ、AI 等の技術革新の進展により、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想され、国全体のデジタル化の取組が進む中、教育分野においても GIGA スクール構想をはじめ、デジタル技術の効果的活用を図ることが期待されています。

一方で、AI がいかに進化しようとも、人間は、自ら課題を設定し、その課題に応じて必要な情報を基に、深く理解して自分の考えをまとめたり、表現を工夫したり、多様な他者と協働しながら目的に応じて粘り強く新しい価値や最適解を見出したりすることができる強みがあります。

時間・空間・世代を超えてつながったり、定められた手続きを効率的にこなしたりできるデジタルの利点と、歴史・伝統文化・自然等に触れるなど、児童生徒が感性を豊かに働かせることができる金沢の利点とを融合しながら、新しい時代が求める「創造力」を育みます。

新しい価値や最適解を見出す過程で見られる子どもの姿

課題を見つける

解決に向けて深く考える

他者と協力して活動する

感性豊かに表現する

粘り強く挑戦する

何を学ぶか 金沢ベーシックカリキュラム

デジタル科＋教科のDタイムの設定

各教科の教育課程＋教科のRタイムの設定

金沢ふるさと学習等＋教科のCタイムの設定

どのように学ぶか 金沢探究スタイル

探究的な活動の充実

デジタルとリアルの往還

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

何ができるようになったか 金沢リフレクション

デジタル力の振り返り

読解力の振り返り

コミュニケーション力の振り返り

目的

- 「創造力」を育むために、基盤となるデジタル力・読解力・コミュニケーション力の育成を重点とした学習内容を示すことで、金沢独自の小・中学校の教育課程の基準を明確にすることを目的とします。

デジタル力の育成

デジタル科＋教科のDタイムの設定

1 概要

発展的プログラミング学習や先端技術を学習することに加え、重点的に情報活用能力を育成するD（デジタル）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2 具体的な内容

デジタル科の新設

- プログラミング教育ベーシックカリキュラム（第二版）を改訂した発展的プログラミング学習やデータ活用探究学習等を新たに実施
- デジタル・シティズンシップ教育の充実

教育課程を「デジタル力」育成の視点で編成

- 情報活用能力体系表の改訂
- 各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「デジタル力」育成の視点で編成し、学期に1回、小学校は10教科、中学校は9教科で「Dタイム」を位置付け

ICT活用の充実

- ICTの日常的な活用
- ICTの効果的な活用

読解力の育成

各教科の教育課程＋教科のRタイムの設定

1 概要

知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成に加え、重点的に読解力を育成するR（読解）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2 具体的な内容

教育課程を「読解力」育成の視点で編成

- 各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを「読解力」育成の視点で編成し、「Rタイム」として位置付け

資料・新聞等の活用

- 文章・図表・動画等の幅広い情報を基に、自分の考えを整理し、文と文のつながりに着目して、まとまりのある文章を書くなどの表現活動の充実
- 複数の資料の関連付け、考えの形成、再構築
(例)
・ 新聞・書籍の活用（電子版を含む）
・ インターネット等から情報収集、分析し、考察したことを基にディベートの実施
・ 全国学力・学習状況調査の活用

読書活動の充実

- 授業のねらいに沿った学校図書館の活用の推進
- 読書の質の向上に向けた取組
- デジタル資料と図書資料の利点の融合

コミュニケーション力の育成

金沢ふるさと学習等＋教科のCタイムの設定

1 概要

金沢ふるさと学習と豊かな体験活動を通して、感性を磨くことに加え、重点的にコミュニケーション力を育成するC（コミュニケーション）タイムを各教科の教育課程に位置付ける。

2 具体的な内容

教育課程を「コミュニケーション力」育成の視点で編成

- 各教科等の金沢ベーシックカリキュラムを対話やプレゼンテーション能力を意識した「コミュニケーション力」育成の視点で編成し、「Cタイム」として位置付け
(例)
・ 算数科・数学科で、データの分析結果をプレゼン
・ 英語科で、調べた国の情報を英語でプレゼン

金沢ふるさと学習の充実

- 金沢ふるさと学習をSDGsやG7教育大臣会合「富山・金沢宣言」の視点で改訂

体験活動の充実

- 伝統文化・工芸、歴史的建造物等に触れる活動
- 音楽、美術、劇等の本物に触れる活動
- 多様な価値観・文化に触れる国際理解教育

目的

●金沢型学習スタイル（ICT版を含む）とデジタル力・読解力・コミュニケーション力を基盤に、「自分はどうか」「自分はどうか」「自分に何ができるか」を考える探究的な学びを通して、「創造力」を育成することを目的とします。

1 概要

- デジタルとリアルの往還、個別最適で協働的な学びの一体的充実を図りながら、主体的・対話的で深い学びを通して、各教科等の資質・能力を育成する。
- 教科の学習をはじめ、学校生活にかかわる課題や地域課題、地球規模的課題などを自分のこととして受け止め、多様な他者と協働するなど、解決に向けた活動の充実を図る。

2 具体的な方法

金沢探究スタイル

◎自分はどうか、自分はどうか、自分に何ができるかを考える。

- ICTを効果的に活用したり、リアルな体験を通して感性を磨いたりする学習の充実を図る。
- 自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けたり、多様な他者と協働的に学んだりしながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- 探究的な活動や体験活動を通じ、課題を自分のこととして受け止め、多様な他者と協働しながら各教科等の資質・能力の育成を図る。

デジタルで学ぶ

デジタルとリアルの往還

リアルで感性を磨く

様々な場面で、デジタルとリアルを使い分けたり、組み合わせたりしながら、教科の内容と日常生活を関連付けたり、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせたり、自分のこととして捉え考えたりする学習を行う

個別最適な学び

課題設定、情報の検索、データの処理や視覚化、レポート作成等でICTを効果的に活用し、個々が選んだ方法を用いて課題を解決する
(例)
・課題設定（電子新聞・電子書籍の活用等）
・整理・分析（統計的手法、思考ツールの活用等）

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

地域での体験活動や各分野の専門家との交流を通して、互いの考え方や感性を刺激し合い、個々が選んだ方法を用いて発見した課題を解決する
(例)
・情報収集（体験活動、図書館、アンケート等）
・まとめ・表現（パネルディスカッション等）

協働的な学び

時間的・空間的制約を超えて音声・画像・データ等を送受信し、多様な人たちと、異なる視点で情報共有を図ることで、考えを広げ、深める
(例)
・ICTで共同編集する
・多様な意見を共有しつつ、合意形成を図る
・デジタルで国内外へ発信する

様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできる実感をもつことを繰り返すことで、主体的に学びに向かい、学んだことを生かす
(例)
・学校、地域・企業等、社会に向けての報告

探究的な活動の充実

まとめ・表現
・相手意識や目的意識をもったまとめ・表現、考えの再構築を図る工夫
(例) ICTの活用、制作活動 等

整理・分析
・情報の比較分類、関連付けを図る工夫
(例) ICTや発達段階に応じた思考ツールの活用 等

情報収集
・各教科の見方・考え方を働かせた情報収集、情報の蓄積を図る工夫
(例) 実験・観察、追体験 等

課題設定
・目標に基づいた課題設定
・学習対象への興味・関心に基づいた課題設定
・リフレクションに基づいた課題設定
(例) 前時との比較、体験活動、理想と現実のずれ 等

順番が前後したり、1つの活動の中に、複数のプロセスが一体化して同時に行われたり、何度も繰り返したりすることがある。

目的 ●何を学ぶかを示した「金沢ベーシックカリキュラム」、どのように学ぶかを示した「金沢探究スタイル」、土台となる金沢独自の小中一貫教育により、児童生徒がデジタル力・読解力・コミュニケーション力について、身に付けることができたかを振り返ることを目的とします。

1 デジタル力・読解力・コミュニケーション力を身に付けた子どもの姿

デジタル力

「主体的にデジタル社会と関わる姿」
 ・日常的に ICT を活用する
 ・課題設定、情報収集、整理分析、表現・まとめを行う探究的な活動で ICT を効果的に活用する
 ・「どのように活用すれば自分もみんなも幸せになれるのか」を意識し、責任ある市民として社会に参画する など

読解力

「学び続けるための土台を身に付けた姿」
 ・文章、図表、動画等から情報を収集、整理・分析する
 ・情報に自ら関わり、地域や世界にはどのような課題があるか読み取る
 ・他者の思いを読み取る など

コミュニケーション力

「他者を尊重し自分の意思を伝える姿」
 ・ICT を効果的に活用したり、リアルな体験活動を通して感性を豊かに働かせたりする
 ・自分なりに考えたり、多様な他者と協働したり、みんなで折り合いをつけたりしながら探究的な活動に取り組む
 ・相手や目的に応じて、分かりやすくプレゼンするなど

2 児童生徒が学びの成長を自覚するための場の設定・資料の活用

各教科等

- ノートや1人1台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
- Dタイムで学びを自覚する自己評価

各教科等

- ノートや1人1台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
- Rタイムで学びを自覚する自己評価

各教科等

- ノートや1人1台学習用端末を活用した振り返り、相互評価
- Cタイムで学びを自覚する自己評価

全国学力・学習状況調査等

- 児童生徒質問紙
 - ・PC、タブレットなどの ICT 機器の使用頻度
 - ・PC、タブレットを活用することの有用性
- 学校評価
 - ・学校評価計画に重点目標、デジタル力を観点とした評価項目・指標の明記
- 市内統一の調査
 - ・学期毎に1人1台学習用端末を活用した調査

全国学力・学習状況調査等

- 国語の「読むこと」「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」のうち、根拠を基に深く考えることに適した問題
- 児童生徒質問紙
 - ◇読書活動に関すること
 - ・授業時間以外の読書時間
 - ・図書館の利用頻度
- 学校評価
 - ・学校評価計画に重点目標、読解力を観点とした評価項目・指標の明記
- 市内統一の調査
 - ・学期毎に1人1台学習用端末を活用した調査

全国学力・学習状況調査等

- 児童生徒質問紙
 - ◇話し合いに関すること
 - ・自分の考えを深めたり、広めたりする
 - ・互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
 - ◇地域や伝統、外国に関すること
 - ・地域や社会をよくするために何かしたい
- 学校評価
 - ・学校評価計画に重点目標、コミュニケーション力を観点とした評価項目・指標の明記
- 市内統一の調査
 - ・学期毎に1人1台学習用端末を活用した調査

情報活用能力検定

(例)
 ・情報活用能力体系表(文科省)に基づく、情報活用能力調査の実施(小6、中2)

読解力検定・コンクール等

(例)
 ・文章を正確に理解し、利用し、熟考する調査
 ・NIEの取組、読書感想文、自由研究 など

ロボットコンテスト等

(例)
 ・校内ロボットコンテストの実施
 ・大学等主催のプログラミング大会に参加(希望者)など

フォーラム・ジュニア金沢検定等

(例)
 ・金沢ふるさと学習で設定した課題の解決方法について金沢SDGs子どもフォーラム等で紹介
 ・英語スピーチコンテストの開催(希望者)
 ・ジュニアかなざわ検定への参加(希望者)など